
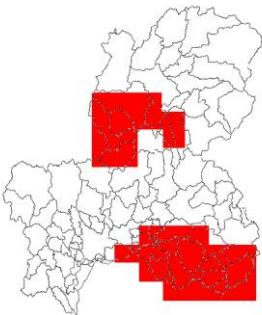


ダンドタムラソウ	<i>Salvia lutescens</i> (Koidz.) Koidz. var. <i>stolonifera</i> G.Nakai	絶滅危惧Ⅱ類
		シソ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。	写真(後藤常明)
形態の特徴	多年草。茎は高さ25-50cmになり、花後倒れて途中の節から根を出し、茎の基部からも長い匍匐枝を出して殖える。葉は対生し、1-3回羽状複葉、小葉は卵形～倒卵形。花期は6-8月。茎や枝の先に長い穂状花序を出し、淡青紫色で長さ1cmほどの唇形花を、数段にわたって輪生する。雄蕊は曲がらず、花筒外へ突き出る。	
生態的特徴	山地の沢沿いの林内に生える。	
分布状況	愛知県や伊豆半島の一部に分布する。県内では県北の南部及び県南の南東部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南及び県北の限られた地域に集中しており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良